

---

# 私は言葉をもたない

ブキオカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私は言葉をもたない

### 【Nコード】

N7253Y

### 【作者名】

ブキオカ

### 【あらすじ】

私は平凡な高校生でもないけれど、非凡でもなく。少し周りから浮いているけれど、会話をする友人がいらないわけでもなく。生きるための努力を怠らない、それで見つかると思っていたものは姿を隠したまま。いつかきつと普通になれるのだと信じていた。

## 01 私は言葉をもたない

ソレを形容するには、言葉は無力だった。

煌きがとどまることをしらない銀色のその高貴なる翼。真っ白な一糸纏わぬなめらかな肌、憂いをひめた闇色の瞳。そして黄金に輝くその長い髪の毛は、この世のものとは思えないほどの光に満ちている。

彼女の姿は存在自体が奇跡そのものだった。

翼がバサリと手を広げ、白銀の羽根が空中に舞う。ふわりと空中に浮かんだ手足を優雅な動きでくねらせ、誇り高き女神は何かをつぶやいた。

その言葉は、誰のもとへも届かないまま闇の中に溶ける。

徐々に上へとその体を浮き上がらせた彼女は、口元をうれしそうに彩り、そしてそのまま月のむこうへと消えていった。

「暇や！ どうか行きたいー。なあイオリ、今からアタシとどっか行かれへん？」

「は？ ……無理。今からとか」

「なんで?! イオリの行きたい言ってた店でもええから！ なっ？ 猛烈に暇やねんて！ もしかしてあつ、アタシのこと嫌」

「なんでって……今、授業中ですけど」

「……野々田。お前、そんなに暇なら職員室に來い」  
「えええっ?! 暇やとは言いましたけど、そんな」

クラスメイトたちの笑い声で教室がつつまれる。

ここはわりと都会に存在する、いたってごく普通の公立藤原高校。偏差値や成績も一般的で駅から近く、施設も充実しているとあって結構人気な高校である。

そして、私 ジョウカイオリ 上下衣織は丁度、一昨日前にこの高校の二年生、ここに専属にされたばかりだ。

隣に座って先生に怒られていた友達、ノダアヤカ野々田彩夏がパチツと両目をつぶり懇願してくる。

「イオリー! ほんま今日家帰りたくないねん。放課後どっか付き合うつてくれえー」

「……お兄さん?」  
「せやねん、最近兄ちゃん酒飲んでベロンベロンなって帰ってくるし、それにたまに暴力振るうねん。かよわい女子にはアレは耐えきれへんわー」

彩夏は困ったように溜息をつき、ポニーテールの明るいブラウンの髪の毛(地毛だそうだ、)をくるくるともてあそんだ。

彩夏は今彩夏と、その兄と、母親の三人で暮らしている。

もとは関西のほうに住んでいたらしいが、父親と離婚してもう一人の男兄弟とも離れ離れになってしまったらしい。大変だと思うが、彩夏の笑顔はそれを一切感じさせない。

一年前東京に引っ越してきて、色々不慣れだった彩夏の、私は力になりたいと思っていた。少し馬鹿っぽい…いや、本当の馬鹿である彩夏だが、性根は優しく弱いものを見捨てない正義感がある。だから、友達とか恋愛とか人間関係にこだわらなかつた私が唯一、信頼している人物である。

「そんなに大変なら、私の家に泊まってく？」

「や、それはあかん！ いつも言ってるけど、それだけはあかん」

「ふーん。別に両親ともいないし、遠慮しなくていいのに」

彩夏はなぜか、“泊まる”ということが一種の敷居になっているようだ。

なんか、ほんとどうでもいいところで強情だなあ。

私の両親は、五年前からオラウータンの生態のことを調べている。今はアフリカのどこかを転々としているらしい。あまりハッキリよく分かっていないのは、もう一年くらい生で会っていないからだ。テレビ通話は一カ月に一度かかさないルールだけど、最近は何で、こちらから忙しいという名目ですぐ切ってしまうことが多い。

抗体を作り出すためのグループの重鎮的な存在。苦しんでいる

人を救う。やりがいを感じている。イオリには我慢してもらっているけれど、あと少しの辛抱だ。分かってくれ。

最近成果もあげたらしく、あの人たちは誇らしそうにしていた。

でも、それって単に一人娘より猿のほうが大事だってことだ。

周りが褒める言葉を耳から流し、いつも私はたとえようもないものを心に抱いている。

だからといって、私は不幸というわけではない。キッチンとあの二人に愛されているのは理解してるし、一緒にいたい！…などと、駄々をこねたりしたことは一度もなかった。

「ほなアタシ次美術やから、またなー」

「んー」

考えごとをしすぎていた。休み時間も残り少ない。今から初めての選択授業である。

## 01 私は言葉をもたない（後書き）

投稿するのは緊張します。無知なのでファンタジーに挑むのは無謀ですし、世界観などの矛盾点やいろいろと至らないところがあるとは思いますが、楽しんで頂ければ幸いです。私の話は、なんとなく読んでいただければ正解だと思います。

… 明日から祝日またぎの期末テスト…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7253y/>

---

私は言葉をもたない

2011年11月21日20時49分発行